

循環する流水のように
～生まれ変わるガラス～

林 和恵 (北見支部)

2019年11月30日道東Bブロックの活動として網走の流水硝子館でガラス制作・加工体験をしてきました。

ここ流水硝子館で主に使用するガラス原料は、廃棄された蛍光灯のリサイクルガラスです。日本のガラス原料の多くは輸入に頼っていますが、流水硝子館は地球環境や温暖化問題などを考え、オホーツクの地域リサイクル資源を活用しようと、北見市留辺蘂町の野村興産(株)イトムカ鉱業所からリサイクル原料の廃蛍光灯ガラスカレット(イトムカマテリアル)の供給を受け、ガラス製作を始めたそうです。流水硝子館で製作する廃蛍光灯リサイクルガラスを原料とした製品を“エコピリカ”といい、「エコ」はエコロジー、「ピリカ」はアイヌ語で「正しい、美しい」という意味が込められています。

体験コースは3種類あり、私は吹きガラスに挑戦しました。

色・形・模様の組み合わせを選んでいるだけでワクワクしました。自分の番になり、一通り吹きガラスのやり方の説明を聞いて、前の人の様子もじっくり観察していたし、子供でも体験できるのだから、そこそこやりこなせるかと思いきや、思っていた以上に暑く、吹き竿は重く、肺活量も必要で、もたもたしていると垂れてくるので、ほとんどサポート頼みでした

が体験して改めて職人さんの技術力に感心しました。



吹きガラス挑戦中！！

こちらでは、オリジナルオーダーも制作していただけるので、作品作りはプロにお任せすることにして、住宅の新築やリフォームの時に表札やダイニングのペンダントライトなどonly oneをプラスできたら素敵ですよ。しかもリサイクル原料で地球に優しく、また地域資源の活用でCO₂削減に少しでも貢献できるので最高ですね。

売店内には、オホーツク海の流水や雪などの自然をガラスで表現した作品や、乾電池から出るマンガンを利用したガラス製品「バッテリーブラウン」というカラーの作品など、食器からアクセサリーなどたくさんの商品が並んでおり、どれも素敵で目移りしますが、お気に入りの食器を見つけて、自宅の食器棚に並べ、少しずつ増やしていきたいなあと思いました。

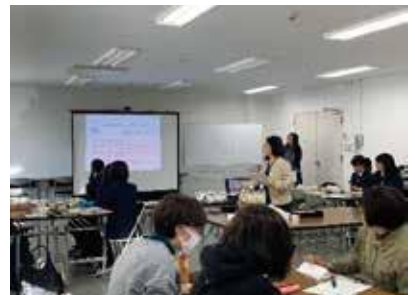


体験後はみんなでランチ

防災ワークショップ
「女性視点からの防災」を開催して
須藤志津子 (釧路支部)

釧路支部女性委員会では昨年下旬から全3回の予定で、様々な立場の女性に集まって頂き、被災時に起きる問題点や、避難所で安全・安心な生活をするために女性視点からの意見交換の防災ワークショップを開催しました。

第1回目は令和元年11月30日に参加者20名で、色々な立場の女性達で防災についての意見交換(被災した経験からの意見等)をして、最後にグループ発表を行いました。



災害事例を説明

第2回目は令和2年2月8日に参加者13名で、災害が起きた想定での避難と避難所の運営について話し合いました。その際釧路工業高校の図面を使った「Doはぐ」演習を通して、安心・快適な避難所に必要なことを考えました。



「Doはぐ」のグループ発表

第3回目は前2回のワークショップの内容をまとめ、具体的に「社会への提言」を検討する予定になっております。

第1回、第2回と実施したワークショップでは、看護師・高校生等様々な方達に参加頂き、とても有意義な内容となりました。